

ISO で進化する組織紹介

アテック京都株式会社

代表取締役 草木敏之 氏

部長 山本利行 氏

創業 25 年を迎え、「お客様のお困りごとにお応えする」をモットーとして、樹脂パーツ製作の実績と信頼を礎に事業を展開するアテック京都。ISO9001 認証を取得されて 19 年目となる現在の活用状況と今後の展開を草木敏之代表取締役社長と品質管理責任者の山本利行部長にお伺いしました。



山本利行部長 草木敏之代表取締役

—御社ではどのような事業を展開されているのでしょうか？

当社は、特注品のような小ロットの製造機械の樹脂パーツを製作する BtoB ビジネスを行っています。半導体や医薬品の製造機械の樹脂パーツが多く、かなり小さなサイズにも対応しているので、京都のベンチャー企業様などからのご依頼も多くなっています。

樹脂パーツというと、金型に樹脂を流し込んで何千・何万個と製作するという大ロットのイメージを持たれると思いますが、当社が小ロットなのは、製造機械がそのメーカーごとにカスタマイズされることが多いからです。試作品のような製造機械の樹脂パーツの依頼では、1 個ということもありますが、当社ではお客様のそういった需要にもしっかりと応えられる体制を整えています。

—「お客様のお困りごとにお応えする」という企業スタイルですが、それはどのようなところに現れていますか？



お客様の「こんな樹脂パーツが欲しい」というご要望にお応えするのはもちろん、納期の面でもご要望にそえるように対応しています。樹脂パーツは、切削加工や曲げ加工、溶接などで製作しますので、金型を使用するインジェクション加工と違い、メッキなどを施す必要がありません。これが樹脂のメリットで、しっかりした技術力を元に設計図通りのパーツを短い日数で製作することができます。お客様から

「納品の前日になって部品が壊れた！」とか「発注漏れがあった！」といった急な発注がくることがありますが、みなさん「アテック京都ならなんとか対応してくれるだろう」と思っておられるようで、ありがたいことだと感謝しています。

またお客様への様々な技術的な提案も行っています。お客様が求めているパーツを「どんな樹脂が良いのか」などの提案をして一緒に形にしていく提案をはじめ、設計として過剰だと思われる場合には「サイズ調整をすればコストダウンが可能になる」といった提案もしています。時には設計図を見てどのように作ればいいのかと悩むこともありますが、営業担当者も含めたお客様との相談の中で対処していきます。樹脂パーツはミクロン単位の調整が必要ですが、設計図通りに製作してお客様のご要望にお応えできる技術とノウハウは、しっかりと社内に蓄積されてきています。

—2002年にISO9001を取得されていますが、きっかけはどのようなことでしたか？ また取得後に変化はありましたか？

その頃品質に関する課題解決のためにISO9001規格が多くの企業で採用されるようになってきていました。それに伴って当社もISO9001取得がお客様からの取引条件となったからです。加えて少しでも作業環境を整えて、お客様のニーズに応えたいという思いもありました。

ISO9001を取得してから変わったことは、すべての仕事の段階において共通認識が出来るようになったことです。取得以前から「不良品を出さないようにする」という方針はありましたが、製作担当者、部長、社長という限られた範囲でのディスカッションで終わっていました。取得後は不良品が出たらきちんと経緯や原因を考えて書面化して残し、全体会議にも議題として上がりますので、社員の仕事への取り組み方が変わってきました。一つの課題へのよい対応の仕方が社員全員の意識のなかに浸透してきていることが大きいですね。



管理責任者の山本部長も——

ISO9001の取得後は、体系的に物事に取り組むことができるようになったと感じています。製作作業が「一職人の仕事」から脱して、「誰でもが同じようにできる仕事」というレベルに上がり、書面化することで「教えやすい」「聞きやすい」「見ればわかる」という体系化された流れになってきたと実感しています。

—ISO9001認証を取得する際にご苦労された点、取得したメリットは何でしょうか？

取得に向けて動き出した時は、一年間コンサルタントの指導を受けました。月一回、社員全員でレクチャーを受けましたが、最初の頃はカタカナ用語を理解するのに時間がかかりましたね。「紙に書いて残す」とはどういうことなのかというレベルです。当時の

ISO9001 認証のリーダーがわかりやすいようにマニュアルを作ったり、フォーマットを作ったりと頑張ってくれて、全社員の理解が進んで行きました。

ISO9001 認証の取得は、良品をお客様にお届けするための取り組みなので、進めていくうちにたくさんの「気づき」が出てきたことも大きかったです。

更に山本部長は――

ISO9001 認証は、当社にとってもお客様にとっても、製品保証の点では欠かせないもので、何か不具合やトラブルがあったときにも、書面として残っているので対応がしやすいと実感しています。当社は、従来からお客様のために「こうしたらいいか」「ああしたらいいか」と試行錯誤しながら仕事を進めてきましたが、そこに社会的な信頼性のあるISO9001 への取り組みがあることで、よりよい考え方、進め方をしっかり確認した上で認識できるようになったことが大きなメリットです。

またお客様から技術が高い、不良率が少ないというお声がいただけるのは、やはりISO9001 への取り組みで一貫した品質のものづくりが出来上がってきた結果だと思えます。以前のように自分たちだけの判断や基準で仕事を進めていたら、きっとお客様たちが基準とするレベルに追いついていなかったでしょう。お客様の要望に100%応えられる製品の品質維持と向上のためには、ISO9001 への取り組み継続が不可欠だと考えています。

――社員に若い方が多いですが、ISO9001 の教育は行っていますか？

今年も4名の新入社員が入り、平均年齢は35歳になりました。ISO9001 への取り組みについては、社内マニュアルでの教育に加えて、理解をより深めるために新人向けのBLセミナーに参加させるなどで対応していきます。



やはり仕事への取り組み方の教育は重要なので、ISO9001 の教育を通して、よりよい取り組み方を身に付けて欲しいと思っています。

樹脂は非常にデリケートな素材なので、手で触っているだけでも厚みが変わってきます。そのあたりを見越して作業をするのですが、ISO9001 に基づいての作業は手順や注意点が書面化されているので非常にスムーズです。それをベースに、手順の良い作業工程を組むことや削る歯の微妙な回転速度の調整などの経験を積み重ねていけると考えています。

実際、ISO9001 を取得する以前は、個人の仕事の中で「これでいいだろう」と完結していて、それがよくない場合は上司から注意や指導をしていました。あくまでも個人の仕事という範疇の進め方で、社員の誰でもが課題を認識できるような横への展開はなかった

のです。今は先輩社員に ISO9001 が浸透してきているので、よりよい取り組み方の指導ができると考えています。

—ISO9001 の「一貫してよい製品やサービスを提供する」、「お客様の満足を高める」という目的を社員全員でしっかりと理解し実践しているアテック京都。

お客様の要望に応え、品質のよい製品を提供し続けることで、創業 50 周年に向かって大きな飛躍を遂げる事が期待されています。